

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture

- 学士（文学）
- Bachelor of Arts
- 学士（日本語教育）
- Bachelor of Arts in Japanese Language Education

人材養成目的 / Program Educational Objectives

日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。

養成する人材像	<p>日本語・日本文化学類では、日本や世界の言語や文化に関する深い理解を備え、これからの日本社会・国際社会が直面する様々な課題を解決する能力をもった、以下のような多様な人材を養成します</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本語や日本文化に対する専門的な知識を身につけ、国内外で日本語教員として活躍できる人材 - 中学校・高等学校における外国人児童生徒への日本語教育についても対応できる国語科教員として活躍できる人材 - 日本国内における外国人コミュニティ等を巡る問題に取り組み解決する知見を持ち、公務員、NPO等の職員として活躍できる人材 - 日本語や日本文化への深い理解を生かし、一般企業において言語、価値観、非言語コミュニケーションに由来する諸問題の解決に貢献できる人材 - 日本語・日本文化に関連する分野の研究者として活躍できる人材
卒業後の進路	日本語教員、国語科教員、公務員、NPO等の団体職員、一般企業、研究者

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

知識・能力（専門 コンピテンス）	1. 言語事象 1	グローバルな視点を前提に、言語事象を構造的に分析することができる
	2. 言語事象 2	グローバルな視点を前提に、日本における言語事象を社会・人間との関わりで捉えることができる
	3. 文化事象 1	グローバルな視点を前提に、文化事象をテキスト内在的に捉えることができる
	4. 文化事象 2	グローバルな視点を前提に、日本における文化事象を社会・人間との関わりで捉えることができる
	5. 異文化間課題解決能力	言語や文化の異なりに由来する様々な課題を理解し、解決していくことができる
	6. 社会的実践力	異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、実践的に解決していくことができる
学修成果の評価に 関する方針	本学類での学修・研究活動の集大成としての卒業論文を重視した学修成果の評価を行います。卒業論文それ自体の評価と合わせて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業論文の主査・副査を中心とした指導体制により評価します。	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程の 編成方針	<p>総合的な方針</p> <p>すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して学ぶ実践性を重視した授業科目を提供しています。さらに、海外で学ぶ国際研修、留学生とともに調査・研究を行う協働授業、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、現地・現場はもちろん、日常の学習の場を通して多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。</p> <p>AE13 で始まる科目群（日本語、多文化共生・日本語教育、日本文化）が主に言語事象 1・2、文化事象 1・2 のコンピテンスに、AE14 で始まる科目群（国際・協働）が主に異文化間課題解決能力、社会的実践力のコンピテンスに対応するように設計されています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 年次…共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。 - 2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。 - 3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力を向上させます。 - 4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。 - 3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。 - 海外で実施する国際研修やインターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。
---------------	---

<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 2年次秋学期から卒業論文執筆に向けた総合演習導入・総合演習を開講し、言語事象や文化事象に関する分析能力や研究手法を確実に身につけられるよう支援します。 - 国内外における実習科目を開講し、異文化間やコミュニティにおける社会的な課題に関する実践的な能力を身につけられるよう支援します。 - 少人数という本学類の特色を活かして学生・教員間の緊密な交流を行い、実習や卒論ゼミなどにおいて、きめ細かい指導を実施しています。
---------------------------------------	---

		育成する能力とカリキュラムの構造			
		1年	2年	3年	4年
専門科目	総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合 多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力			総合演習導入、総合演習I,II	卒業論文演習I,II、卒業論文
	グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識		国際・協働科目群 共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、インターンシップ、ほか	日本語科目群 日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語と文化、ほか	
専門基礎科目	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成		日本語教育学特別演習、海外語学研修 専門英語A,B,C		
		日本語・日本文化研究法、概論科目、人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門基礎科目 学際科目（専門導入科目）： 共生のための社会言語学、共生のための日本語教育、共生のための人権学、共生のための歴史学、日本文学と文化			
科目基礎	広い視野からの専門分野の発見と位置づけ		共通科目		
			関連科目		

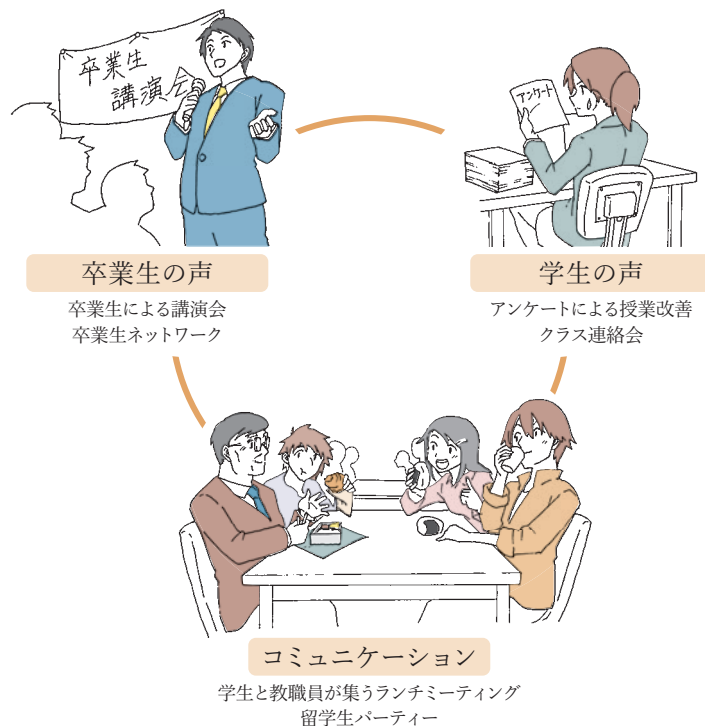
入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。	
入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に関する学問に取り組むための基礎学力を十分に持ち、それに基づく思考力・応用力を有する人材を選抜します。（共通テスト及び個別学力検査）
	推薦入試	高等学校における平素の学習や活動の成果などを基に、志願者の能力・適性を総合的に評価します。明確な問題意識と勉学への意欲とを持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に関する専門領域に対する適応性を示す人材を選抜します。（小論文及び面接）
	AC入試	日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方について独自の視点を持ち、自ら問題を見出し、解決する能力を重視して選抜します。（第1次選考：書類審査、第2次選考：面接・口述試験）
	国際バカロレア特別入試	国際バカロレア資格を取得した者を対象として、日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する旺盛な知的好奇心と明確な問題意識を持ち、国際的な視野に立って自ら問題を見出し、解決する能力を有する人材を選抜します。語学力を含めたコミュニケーション能力を重視し評価します。（書類審査、面接・口述試験及び小論文）

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを一貫して担当するクラス担任制により、個々の学生の学業と生活を継続的に支援しています。 - 登録日本語教員資格取得に関する説明会を実施します。
学生同士の交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 日本語・日本文化学類所属の留学生のためのチューター制度を学類として支援・推進しています。 - 留学生、海外からの訪問学生団等との交流会を学類の学生主体で実施しています。 - 総合学域群からの移行生との交流会を実施します。
教員との交流機会	<ul style="list-style-type: none"> - 年に数回、教員を交えた「ランチミーティング」を実施しています。 - クラス連絡会において教員との意見交換を行います。 - 国内外での実習期間中に教員との授業科目の枠を超えた情報交換等もできます。

質の高い教育を支える学生・教職員間の緊密な交流



イラスト…橋元大野君(日本語・日本文化学類生)の原図をもとに一部改変

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学生の学修成果とその達成度を適正に評価できるよう、学類では成績評価ガイドラインを定め、ウェブサイトで公開しています。成績評価基準を明確にして、学生と教員がともに学修の成果を振り返ることで、適切な指導につなげています。
- 学生による授業評価を行うとともに、それに基づき全教員が「授業改善計画書」を作成し、公開しています。この一連のプロセスにより、カリキュラムおよび授業内容の向上のための継続的なフィードバック体制を作っています。
- 学類の諸活動や教育成果などを、ホームページ、フェイスブック、エックスなどの媒体を通して、外部に向けて積極的に発信しています。
- 学類所属の教員による FD 活動を定期的に行い、つねに学類の教育の質の検証と改善をはかっています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（日本語教育）の学位を授与します。

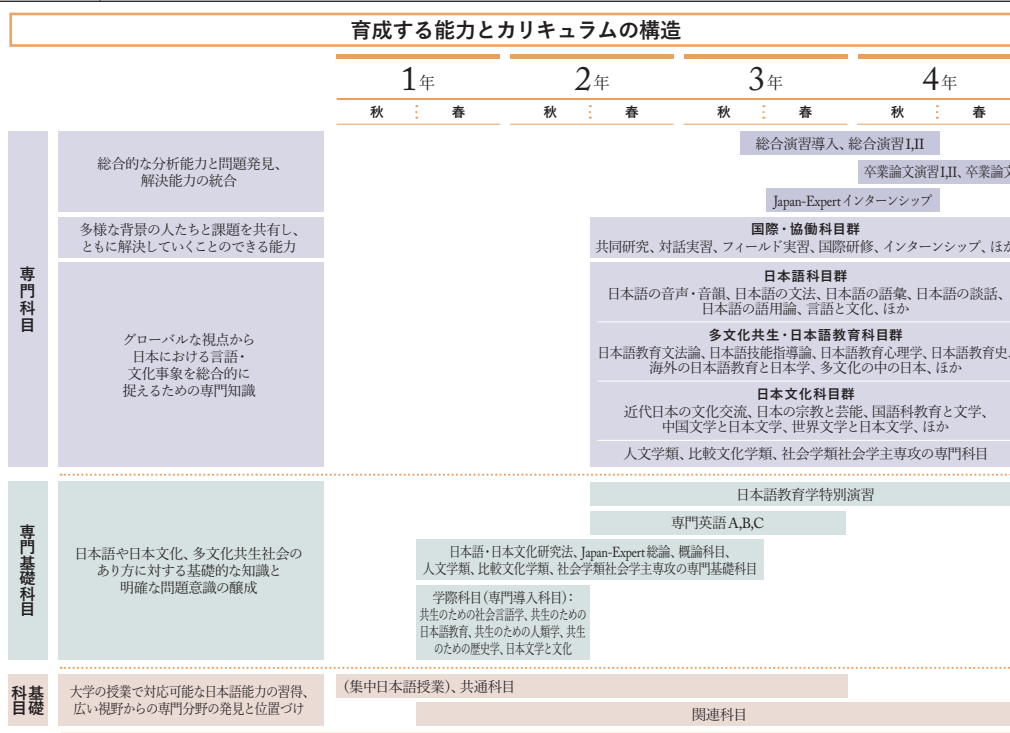
知識・能力（専門コンピテンス）	1. 言語事象 1	グローバルな視点を前提に、言語事象を構造的に分析することができる
	2. 言語事象 2	グローバルな視点を前提に、日本における言語事象を社会・人間との関わりで捉えることができる
	3. 文化事象 1	グローバルな視点を前提に、文化事象をテキスト内在的に捉えることができる
	4. 文化事象 2	グローバルな視点を前提に、日本における文化事象を社会・人間との関わりで捉えることができる
	5. 異文化間課題解決能力	言語や文化の異なりに由来する様々な課題を理解し、解決していくことができる
	6. 社会的実践力	異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、実践的に解決していくことができる
	7. リーダーシップ力	専門知識に基づき、地域社会のリーダーとなって、企業活動・市民活動をけん引することができる
学修成果の評価に関する方針	本学類での学修・研究活動の集大成としての卒業論文を重視した学修成果の評価を行います。卒業論文それ自体の評価と合わせて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業論文の主査・副査を中心とした指導体制により評価します。	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（日本語教育）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程の 編成方針	<p>総合的な方針</p> <p>すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して、実践力・リーダーシップ力を育成する授業科目を提供しています。</p> <p>さらに、海外で学ぶ国際研修や、多様な言語・文化的背景を持つ学生とともに調査・研究を行う協働授業を通して、多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。</p> <p>AE13 で始まる科目群（日本語、多文化共生・日本語教育、日本文化）が主に言語事象 1・2、文化事象 1・2 のコンピテンスに、AE14・AE18 で始まる科目群（国際・協働、Japan-Expert インターンシップ）が主に異文化間課題解決能力、社会的実践力、リーダーシップ力のコンピテンスに対応するように設計されています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 年次…入学後半年間は集中日本語教育を受け、その後は、共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。 - 2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習や国際研修などの国内外での学修活動を通して、より広い視野の中で、日本語・日本文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。 - 3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、「Japan-Expert インターンシップ」等の実習を通して問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力・リーダーシップ力を向上させます。 - 4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本語教育コーディネーターを配置し、学修等について支援します。さらに、学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。 - 3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。 - 実習やインターンシップの説明会を行うなど学生への情報提供に努め、参加費用のための奨学金の獲得にも力を入れています。
---------------	--

<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 3年次から卒業論文執筆に向けた総合演習導入・総合演習を開講し、言語事象や文化事象に関する分析能力や研究手法を確実に身につけられるよう支援します。 - 国内外における実習科目やインターンシップ科目を開講し、異文化間やコミュニティにおける社会的な課題に関する実践的な能力やリーダーシップ力を身につけられるよう支援します。 - 少人数という本学類の特色を活かして学生・教員間の緊密な交流を行い、実習や卒論ゼミなどにおいて、きめ細かい指導を実施しています。
---------------------------------------	--



入学者受入れの方針 / Admission Policy

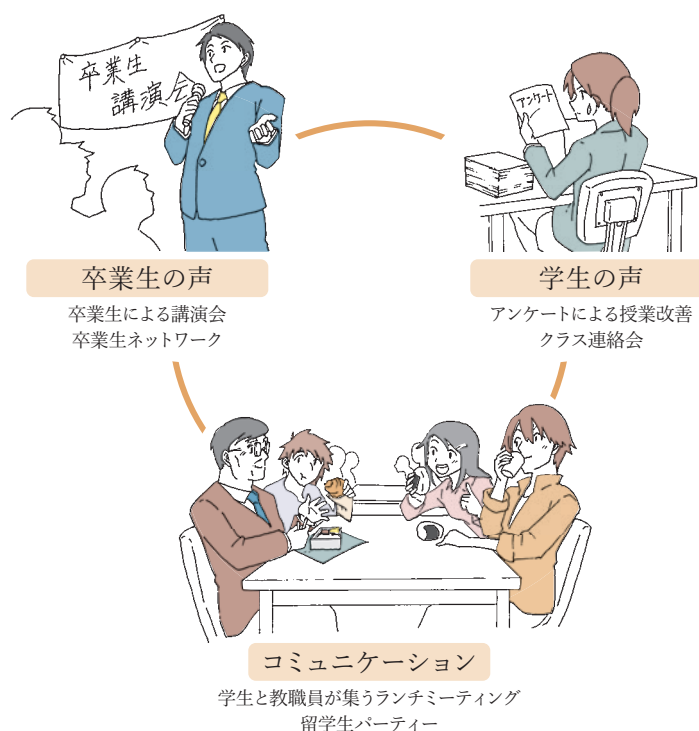
<p>求める人材</p>	<p>旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。</p>	
<p>入学者選抜方針</p>	<p>Japan-Expert（学士）プログラム</p>	<p>日本語、日本文化に幅広い興味を有し、将来、国内外において日本での就学・就労や日系企業での就労を希望する者に日本語を教える日本語教師への適応性を有する人材を選抜します。（書類審査及び面接・口述試験）</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを一貫して担当するクラス担任制により、個々の学生の学業と生活を継続的に支援しています。 - 登録日本語教員資格取得に関する説明会を実施します。
--------------------	--

<p>学生同士の 交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 日本語・日本文化学類所属の留学生のためのチューター制度を学類として支援・推進しています。 - 留学生、海外からの訪問学生団等との交流会を学類の学生主体で実施しています。 - 総合学域群からの移行生との交流会を実施します。
<p>教員との交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 年に数回、教員を交えた「ランチミーティング」を実施しています。 - クラス連絡会において教員との意見交換を行います。 - 国内外での実習期間中に教員との授業科目の枠を超えた情報交換等もできます。

質の高い教育を支える学生・教職員間の緊密な交流



イラスト…橋元大野君(日本語・日本文化学類生)の原図をもとに一部改変

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学生の学修成果とその達成度を適正に評価できるよう、学類では成績評価ガイドラインを定め、ウェブサイトで公開しています。成績評価基準を明確にして、学生と教員がともに学修の成果を振り返ることで、適切な指導につなげています。
- 学生による授業評価を行うとともに、それに基づき全教員が「授業改善計画書」を作成し、公開しています。この一連のプロセスにより、カリキュラムおよび授業内容の向上のための継続的なフィードバック体制を作っています。
- 学類の諸活動や教育成果などを、ホームページ、フェイスブック、エックスなどの媒体を通して、外部に向けて積極的に発信しています。
- 学類所属の教員による FD 活動を定期的に行い、つねに学類の教育の質の検証と改善をはかっています。